

## “SUMOAURA”展（相撲オーラ展）

十和田市現代美術館では、平成21年9月19日（土）～10月18日（日）まで、企画展SUMOAURA展（相撲オーラ展）を開催いたします。

本展は、日本の国技「相撲」を現代アートの切り口で構成展示する企画展です。相撲は『日本書紀』に記された「野見宿禰（のみのすくね）と当麻蹶速（たいまのけはや）」の戦いが起源とされ、以来単にスポーツであることを超え、天下泰平、五穀豊穰など人々の願いの表れとして、日本人の精神に刻み付けられてきました。直径15尺、約5m。円形の小宇宙に繰り広げられる男たちの格闘は、人々の願いや祈りを象徴し、伝統と様式を今日まで保ち続け、絵画、版画、写真、映画、映像、漫画…などさまざまなメディアに写し取られるとともに、紙相撲、指相撲、腕相撲、コンピュータゲームにいたる多様な遊戯へと置換され圧倒的なイメージの渦となって世界観を形成し、大衆を魅了し感動を与えてきました。

相撲を現代アートによる今日的な視点で見つめ直すことで、単なるスポーツを超え、聖なる領域からオーラを放つ相撲の美の諸相を展示構成します。現代アートだからこそ可能となる、相撲という国技が今日の私たちになげかける古くそして新しいイメージを分析精選再構成することで、その美学を発信していきたいと考えています。

展示には、相撲をモチーフとした平面・立体作品から、相撲映像を新たな視点で見せる映像インスタレーションなどが展開されます。また、国技館に掲揚される優勝額は、高さが320cmもあり、50年以上にわたって、たった一人の彩色家・佐藤寿々江により白黒写真に油彩色された500号に匹敵する巨大な「作品」です。この企画では、22回の優勝を誇る貴乃花親方にご協力をいただき、アーティストの作品とコラボレーションする形で展示室を取り囲むようにインスタレーションを行うのも大きな見所のひとつとなるでしょう。あわせて作家による巨大紙相撲ワークショップや、まわし・のぼりなど相撲ならではの素材もアートとしてとらえ構成します。

また十和田市は、世界一大きな屋外屋根付き相撲場を有し、高校・大学の選抜相撲全国大会が毎年開催されるなど、相撲の盛んなまちです。市営相撲場や市内商店街店舗なども会場として使用し、アートと地域振興のあらたな取り組みモデルとしたいと考えます。

出品作家として、熊谷晃太、KOSUGE 1 - 16、柴川敏之、村上タカシ、wowlabが参加します。他にも貴乃花の優勝額、過去の名勝負の映像、相撲ねぶたなどを展示予定です。

### 【開催データ】

- 名称：SUMOAURA
- 会場：十和田市現代美術館、十和田市内商店街店舗、十和田市相撲場
- 会期：平成21年9月19日（土）～10月18日（日）
- 主催：相撲展実行委員会（青森県相撲連盟上十三支部、十和田市商店街連合会、アートチャンネルトワダ実行委員会、十和田市現代美術館）
- 参加アーティスト：熊谷晃太、KOSUGE 1 - 16、柴川敏之、村上タカシ、wowlab
- 観覧料：400円（高校生以下無料。20名以上の団体は300円）
- キュレーション：立木祥一郎
- 協力：財団法人日本相撲協会、貴乃花部屋

【展示概要】

■ 熊谷晃太

相撲をモチーフとした平面・立体・写真作品を展示します。

会場：十和田市現代美術館・企画展示室



「雲竜型」2009年

■ KOSUGE 1 - 16

身長約180cmの力士による大型紙相撲。

・ どんどこ！巨大紙相撲—十和田場所

事前の力士づくりワークショップで土俵に上がる力士を制作し、千秋楽で取組を行います。相撲部屋から化粧回し、軍配、のぼり、優勝カップまで、すべて本格的に再現します。

会場：十和田市相撲場、商店街ほか



「どんどこ！巨大紙相撲 仙台場所」2008年  
撮影：越後谷出 [参考画像]



十和田市相撲場

■ 柴川敏之

相撲をモチーフとした立体作品を展示します。

・ 円形床置の作品

会場：十和田市現代美術館・企画展示室



「PURANET CIRCLE」2001年 [参考画像]

・ 2000年後の相撲ねぶた

青森県立美術館アートイン三内丸山遺跡プロジェクト

「柴川敏之 | 2000年後の未来遺跡 | 三内まるごと

ミュージアム」で制作された作品。縄文自由館蔵。

※共同制作者：立田健太

会場：十和田市内商店街会場



「2000年後の相撲ねぶた」2008年

#### ・化石作品

2000年後に発掘された人形の化石作品。

※MAWASHIプロジェクトの一部として出品

会場：十和田市現代美術館・館内随所、

十和田市内商店街会場ほか



「MAWASHIプロジェクト」2009年

[参考画像]

#### ■ 貴乃花優勝額

縦317cm、横228cmの色彩画(国技館に掲額)。50年にわたりひとりの彩色家・佐藤寿々江によって白黒写真に油彩で色付けされています。

会場：十和田市現代美術館・企画展示室

#### ■ 村上タカシ

美術館と十和田のまちを結ぶインスタレーションを行います。

##### ・ GreenStripeProject

緑白の布(80cm×9m)を十和田市現代美術館から、美術館前官庁通り、十和田市内商店街まで張り巡らせ、相撲の際のふれ太鼓の音を美術館入り口や周辺のスピーカーから流します。

会場：十和田市現代美術館、十和田市内商店街ほか



「GreenStripeProject」2009年

[参考画像]

##### ・ ShimenawaProject

まちから美術館までをShimenawa(紙垂(しで)は淡いピンク)で結び、まち中のさまざまな場所にもshimenawaを張ります。

会場：十和田市現代美術館、十和田市内商店街ほか

##### ・ AsianDream2009towada

和風(竹の骨組に畳)のモンゴルゲルもどき(直径約4m)の展示。ゲル中もしくは周辺でモンゴル相撲関連の展示や立ち相撲体験コーナーなどを設置予定です。

会場：十和田市現代美術館・中庭

#### ■ wowlab

##### ・ SHINKUU

十和田市民などから募った大相撲史上に残る取り組みや貴乃花の取組映像を美術館空間に合わせてインスタレーションを行います。

会場：十和田市現代美術館・企画展示室、十和田市内商店街ほか



「Polar Candle」2008年

[参考画像]

## 【関連イベント】

### ■ プレ・イベント(公開制作)

#### 「MAWASHIプロジェクト」

日 時：平成 21 年 9 月 16 日(水)～ 18 日(金) 13:00～自由解散  
場 所：十和田市現代美術館、十和田市内商店街ほか  
アーティスト：柴川敏之  
内 容：商店街にある身近な人形等に帆布で作った“まわし”と“シコ名”をつけていきます。  
みんな力士に大変身！

### ■ ワークショップ

#### 「ドンどこ!巨大紙相撲 - 力士制作ワークショップ」

日 時：平成 21 年 9 月 19 日(土)、9 月 22 日(火・祝) 10:00～16:00  
場 所：十和田市現代美術館・市民活動スペース  
アーティスト：KOSUGE 1 - 16  
定 員：24 組 予約制(空きがあれば当日参加可能)  
※子どもだけで参加の場合は、小学校中学年以上が対象です。  
※お申し込みは 1 組 2 名以上、9 月 27 日(日)の十和田場所も参加できる方が対象です。  
※当日はお弁当をお持ちください。  
材 料 費：無料  
予 約 先：十和田市現代美術館 0176-20-1127  
内 容：身長 180cm の巨大紙力士、のぼり、化粧まわしなどを制作します。仲間同士でオリジナルの相撲部屋や力士を作って、千秋楽の十和田場所に出場させましょう！

#### 「2000 年後の“化粧まわし”をつくろう！」

日 時：平成 21 年 9 月 20 日(日) 13:00～16:00  
場 所：十和田市現代美術館・市民活動スペース、野外イベントスペース  
アーティスト：柴川敏之  
定 員：15 名 予約制(空きがあれば当日参加可能)  
※小学生以上が対象です。  
材 料 費：無料  
予 約 先：十和田市現代美術館 0176-20-1127  
内 容：和紙とローラーを使って拓本をとると、身近なものが化石に大変身。2000 年後の“化粧まわし”をつくり、完成したらみんなでシコをふみます。最後はひとりずつ記念撮影。

#### 「ドンどこ!巨大紙相撲 - 十和田場所」

日 時：平成 21 年 9 月 27 日(日) 13:00～15:30  
場 所：十和田市相撲場  
アーティスト：KOSUGE 1 - 16  
参 加 費：無料  
内 容：屋外の相撲場で行う巨大紙相撲の大会。土俵をたたいて力士を応援、優勝を目指して大人も子どもも、おじいちゃんも、おばあちゃんも、隣の人も巻き込んだの大盛り上がり！

## 【アーティストプロフィール】

### ■ 熊谷 晃太 (くまがい こうた)

秋田県鹿角市在住。現在注目の新人アーティスト。2004年弘前大学教育学部を卒業後、各地で個展を開催。多様な画材を駆使した平面作品、紙粘土による立体作品、グッズのデザインを手がける一方で、子どもたちへの教育活動も行うなど、幅広く活動を展開している。特有の色遣いと幾重にも折り重ねられた、やわらかな線が特徴。主な個展に、04年NPO法人 harappa 企画個展「SEELEN FRIEDEN」(gallery DENEGA 青森)、07年「宮城勝規×熊谷晃太」展 (HIROO FIVE 東京)、「ヘイリアジア青年作家プロジェクト」(韓国ヘイリ)など。

### ■ KOSUGE 1 - 16 (こすげ いちのじゅうろく)

土谷享と車田智志乃によるアート・ユニット。日常のありふれた環境や現象、人のつながりをきっかけに作品制作を行い、参加型の作品を通して、参加者同士、あるいは作品と参加者との間に、「もちつもたれつ」という関係を作り出す。大型紙相撲のワークショップでは、単に紙相撲をするにとどまらず、新弟子検査、谷町や懸賞、段ボールで作ったオープンカーでの優勝パレードにいたるまで、相撲の世界をそのままワークショップに写し込むことで、大相撲さながらの感動と興奮をもたらす。2005年 横浜トリエンナーレ出品。2008年 第11回 岡本太郎賞 受賞。

### ■ 柴川 敏之 (しばかわ としゆき)

アーティストにして子供時代より真の相撲ファン。広島大学時代に相撲部を設立。女子、外国人部員で相撲部を再興した感動の実話は、映画「ちゃんこ」となった。イタリアのポンペイ遺跡などに触発され「2000年後から見た現代社会」という壮大なテーマをもとに活躍する美術作家。全国のミュージアムをはじめ、街の商店街や酒蔵等での、地域や場所にこだわった展覧会やプロジェクトを精力的に行っているが、作品の随所に相撲のモチーフが見え隠れしている。同時に、子どもたちや一般の人々を対象にしたユニークなワークショップを通して、ものの存在や現代の諸問題を見つめ、考え直す作業を続けている。

### ■ 村上タカシ

1986年より畳やお米を使ったインスタレーション作品など美術家として東京で活動を開始。国内外の展覧会やアートプロジェクトに参加。これまでの作品としては、「GreenCircle」「学校アーツセンター構想」「TANABATA 列車」「村上いろは研究室」やビデオ等の制作を行う。2003年より仙台の裏路地で展開したT.ORG「観光とアート」展など数々の学校やまちを使ったアートプロジェクトを企画実施。最近は「プロジェクト型のアートワーク」を含め仙台や東京などを拠点に芸術普及や文化・教育政策をテーマに文化施設等でレクチャーやワークショップ、アクションなども行う。

### ■ wowlab (わうらぶ)

WOW 仙台のスタッフを中心に、インターフェースとしての映像を研究するためにスタートしたデザインユニット。感性と技術の融合、そしてデザインと開発の一体化を目指す。インターフェースデザイン、インスタレーションの展示、モーショングラフィックスなど幅広い表現活動を展開。主な作品に「Motion Texture」(2006年)、「Tengible」(2007年)、「Polar Candle」(2008年)、「工場と遊園地」(2009年)など。

※WOWについて

CM、PV、VI などの映像デザイン、ディレクションに加え、ショートムービーやインスタレーションといったオリジナルワークを発表。既存のメディアにとらわれない映像の可能性を追求している。